

しんあい

季刊

2006年(平成18年) 11月15日発行 第61号 編集と発行 しんあい編集部

社会福祉法人
多摩同胞会

〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10

TEL 042-366-0080

多摩同胞会のホームページを開設
しています。

<http://www.tama-dhk.or.jp/>
をご覧ください



祝 敬老の日
みんなで、力を合わせてつくりました。 恵方巻!(緑苑)

介護に関するご相談は無料ダイヤルで!

- 泉苑在宅介護支援センター
☎ 0120-6540-24
老後支援 24時間
- あさひ苑在宅介護支援センター
☎ 0120-2942-24
福祉にっこり 24時間

介護保険を考える
PART24
スウェーデン・ドイツ
視察研修報告
施設だより
テーマ「喜怒哀楽」

介護保険を考える 24

鈴木恂子

2006年10月6日付の「シルバー新報」(3頁)は「介護支援専門員7割が困難事例『経験あり』介護保険の限界指摘」という見出しで、立命館大学の研究会が行った調査結果を報じています。紙面によると、調査では「困難事例」への解決が難しかった理由として、「介護保険サービスだけでは解決できない」が55%、「経済的な問題で必要な援助ができない」38%などがあげられており、介護保険制度の限界が指摘されています。当法人の居宅介護支援事業所の介護支援専門員も、解決が難しいご利用者やご家族の抱える問題に対しては、在宅介護支援センターと相談したり、チームワークで援助したり、通所介護や短期

入所生活介護等のサービス部門の協力を得るなどして、問題解決を図っています。また在宅介護支援センターは、ご利用者やご家族の状況に応じて、緊急に地区ケア会議を招集し、市の地域包括支援センターや社会福祉協議会、民生委員、生活介護課(生活保護担当)、障害者福祉課等を総動員し、ご利用者やご家族の直面する複雑かつ困難な問題の解決にあたっています。こうしたことができる自治体は年々少なくなっているのが現状です。今回はあさひ苑在宅介護支援センターの10日間の実際の取り組みを迫ることで、介護保険制度の限界をカバーしている福祉サービスについて考えます。



介護保険制度下での在宅介護支援センターの取り組み

2006年10月1日～10日までの援助実数

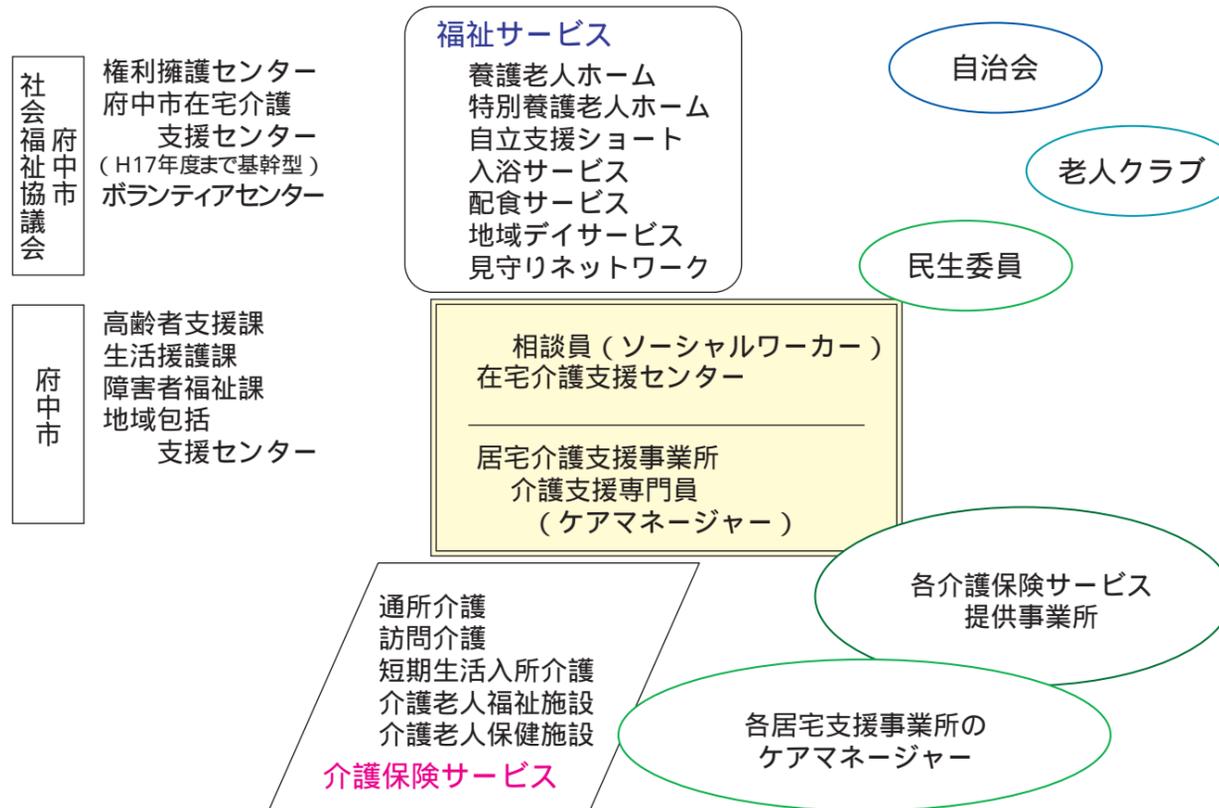
相談を受け、援助が必要な場合には、即訪問し対応します。支援センターは24時間365日体制です。そのために施設全体で協力しています。(あさひ苑在宅介護支援センター：延べ人数)

日にち	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	
曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火		
職員の出勤状況	在支	1	0	2	1	3	3	1	1	2	3	17
	兼務	0	2	2	1	0	1	1	2	2	1	12
	居宅	2	5	4	3	4	4	4	3	2	3	34
	小計	3	7	8	5	7	8	6	6	6	7	63
相談件数	在支	2	8	11	12	11	10	12	8	14	18	106
	居宅	14	39	29	23	23	30	28	15	12	26	239
	小計	16	47	40	35	34	40	40	23	26	44	345
申請代行	0	8	0	0	0	24	0	0	0	8	40	
認定調査	新規	0	1	2	2	1	0	0	3	3	0	12
	更新	0	1	1	1	3	1	4	2	1	0	14
	小計	0	2	3	3	4	1	4	5	4	0	26
件数合計	16	57	43	38	38	65	44	28	30	52	411	
件数/出勤職員数	5.3	8.1	5.4	7.6	5.4	8.1	7.3	4.7	5.0	7.4	6.4	

10日間に援助したご利用者の実人数は、213人になります。213人の方の状況は、いずれも介護保険の対応を超えた在宅介護支援センターの支援活動により在宅生活が支えられています。

- 生活保護を受給している方は、24人で11%を占めています。経済的問題を抱えている方が多いことがわかります。
- 地域権利擁護事業を利用されている方は、8人です。
- 一人暮らしの方は、59人で27%になります。中には安否確認のため、毎日訪問を行っている方もいます。
- 高齢者のみ世帯の方は、32人です。老夫婦のみの世帯の他、高齢の兄弟姉妹のみで暮らしている方も少なくありません。
- 入院中や老人保健施設入所中の方も12人います。身寄りのない方が入院、入所された場合や、家族がいても精神疾患や認知症などで対応ができない場合には、市役所等と連携しながら、援助を行います。

高齢者を支える地域のネットワーク(府中市の場合)



府中市には11の地域型支援センターがあり、市直営の包括支援センターとオンラインでつながっています。また、すべての利用者台帳を整備しています。

昨年度まで老人福祉法のもとで予算化されていた在宅介護支援センターは、今年4月の法改定で介護保険法の地域包括支援センター(以下、包括支援センター)となりました。包括支援センターは、4月から制度化された予防プランも担当することになったため、多くの包括支援センターは今までの支援センターの仕事ができなくなり、予防プランセンター化していると危惧されています。

府中市は包括支援センターを直営とし、従来通りの地域型支援センターは今までの活動が継続できるように存続した全国でも稀な自治体です。地域の支援センターを中心に社会福祉協議会や民生委員さんなどが地域のセーフティネットとなり、昨今報道される悪徳商法の被害者になることを未然に防いだり、課題の多い家族の問題を解決したり、いわゆる虐待の早期発見や早期解決を行っています。つまり他地域に比べて、安心できる暮らしを実現しているといえます。

このような援助は、介護保険制度の対象外となります。保険制度の限界をカバーする福祉施策を充実することこそが、本当に安心できる暮らしにつながります。みなさんはいかがお考えでしょうか？

在宅介護支援センターの担当地区ケア会議で検討された具体的な問題には次のような内容があります(『平成17年度府中市在宅介護支援センター事業報告書』3～4頁)。- 全て介護保険制度だけでは解決が難しい問題ばかりです -

医療・療養に関すること

- 入院期間が長くなり病院から転院勧告が出ているが、転院先が見つからない。
- 結核に罹患しているため、9ヶ月間の予防服薬援助が必要である。
- 癌の末期であるが、独居のため緊急対応が困難である。
- 体調不良になると不安から頻りに救急車を要請する。
- 専門医から入院を勧められたが家族の思いから入院を延期している。

認知症・精神疾患による問題行動

- 独居の淋しさから、リフォーム業者と次々に契約して被害に遭っている。
- 近隣に「金返せ」「泥棒が入った」と攻撃的な行動が顕著になった。
- 関係機関に対し被害的発言が多くなり援助が困難になってきた。
- 子どもの精神病院の退院と同時に同居する話が出ているため統合失調症の本人が精神的に不安になっている。

虐待・介護放棄

- 子どもがギャンブルの散財で、金の無心が酷く死にたいとの訴えがある。
- 親族からほぼ軟禁状態に置かれ医療受診や日常生活の制限を受けている。
- 介護者が介護サービスの利用を拒否しているが介護放棄状態である。
- 暴力行為を受けているとの訴えが多くなったが言動に一貫性がない。
- 親族に通帳を管理され金銭搾取を受けている。

研修報告

法人創立60周年企画

スウェーデン・ドイツ視察研修報告

海外に行って日本が見えた

法人創立60年記念事業として、現場職員の実験交換研修とは別にスウェーデン、ドイツを中心とした福祉施設の視察旅行を実施しました。4名の職員が、各国の福祉制度や福祉サービスをそれぞれが興味を持つ異なる視点で観て歩き、そして食べてきました。

《視察研修メンバー》

- 金 善英 (多摩同協会スーパバイザー)
- 高谷敦生 (泉苑調整室次長)
- 野尻俊介 (あさひ苑ホーム相談員)
- 岸ヨシ子 (かんだ連雀ホーム相談員)



ベーガハウスにて、小笠原理事長率いるチームと。



岩の上に建つイエテボリ

まず、第一印象を

高谷「海外研修お疲れ様でした。視察ということもあり、写真もたくさん撮りました。これを見ながら振り返りたいと思います。まず、特に印象に残った点をそれぞれ一言であげてもらえますか。」

野尻「一人一人をありのままに認め、尊重することが当たり前の社会に触れられたことですね。高齢者施策についても、まず始めにそれぞれの方の要望ありき、だったのはすごいことだと思います。」

岸「私は何と言っても環境の素晴らしさです。特に庭の美しさには感激しました。あの中でお茶などいただいたら、最高ですね。」

高谷「僕は、何といても査定員という仕事について聞いたこと。それとユニットチーフの仕事、特に職員への教育について。これは感動しました。」

金「私も人材育成システムが印象的でした。ユニットチーフは、ソーシャルワーカーのスーパバイザーの役割も担っていました。」

野尻「そこは高谷さんから...」

高谷「視察初日は、三つの財団のベーガハウスを視察しました。ここでは、元査定員のシャスティンさんから講義を受けました。」

『ニーズ』がすべてを決める



元査定員の講義に聞き入る

高谷「そうですね。スウェーデンでは、本人や関係者から介護について申請があると査定員がニーズ査定するのです。査定員は、アセスメントし、ニーズを把握し、必要なサービスの種別と量を査定します。例えば、さんには、ホームヘルプサービスが週 時間必要という風に。実際に、何曜日の何時から何時までヘルパーが入るか、それを受けたヘルパーステーションが担当します。『ニーズ』が全てを決めるんです。そこには優れた高い専門性があるに違いありません。しかも、在宅サービスだけでなく高齢者住宅（スウェーデンでは施設とは絶対に言わない）入居も含めて査定するのです。合理的ですよ。システムはもっとも複雑ではない。」

岸「でも日本だったら、施設入所までの待機期間

高谷「これは、イエテボリ市（スウェーデン第二の都市）です。」



新築するにも色合いをそろえるそう。

野尻「古い建物が多く残る街並みでした。」

岸「建物自体を建て直すのではなく、内部を改修して快適に過ごしている、という話でした。どの建物も、レンガや木材が多用され、とても温かみのある穏やかな印象でした。」

高谷「我々の泊まるホテルのキーが、近くのガソリンスタンドに預けられていました。これには驚きました。(笑)」

野尻「到着早々にあちらの合理性、というものを見せつけられた気がしましたね。良い意味での割が長くて...」

高谷「そこは疑問でした。査定員が高齢者住宅入居が適切であると査定しても、実際に移れるのかってね。」

野尻「この答えも驚きましたね。」

高谷「そうそう。高齢者住宅の確保は、コミュニティと呼ばれる自治体（市のようなもの）に責任が課せられているんです。コミュニティは入居の許可が出た人に対して、3カ月以内に高齢者住宅の空きを見つけてなければなりません。これができない場合は、罰金のペナルティーがある。」

野尻「税金が高いだけあって、行政側も国民に対して無責任ではられないわけですね。」

高谷「査定員もソーシャルワーカーも責任は半端ではない。高いケアマネジメント能力が求められる。もちろん同意も得ているが、とにかく決めちゃえるんだもの。」

岸「ニーズが全てを決めるということについて、まだ言い足りないのでは？」

高谷「その通り。もともと、スウェーデンの人は、貯金をあまりしない。というより、税金として国に貯金しているんですね。貯金は困った時の備えですが、困った時は、国が保障するという図式なわけです。ですので、老後を考え、家を持つという考えにならない。家族構成の変化に合わせて、住み替えます。その延長で、高齢になり介護が必要になれば、国が用意した高齢者住宅へ住み替える。そういう感覚だと思えます。」

野尻「ニーズの話は？」

高谷「査定員は、ニーズを見極めます。その方が、生き生きと暮らせる場所が高齢者住宅であるなら、住み替えが望ましいと査定するのです。」

に、本人にとって望ましい環境やサービスは何かを考えている。逆に、重度でも在宅を強く望む場合には、そのようにプランすることではない。『ニーズ』が全てを決めるのです。国に貯金をしている分、国から支援(ケア)を受ける権利が明確なのです。日本はどうでしょう。限界まで在宅でがんばった後が、ようやく施設入所の選択です。しかも、本人のニーズどころか、家族とだけで決めたり、うっかりするとケアマネ自身の限界だったりする。」

岸 「そうそう。(ため息)」
金 「『サービス利用前の状態を維持したがるニーズ(従前生活維持)』と『確保された安全保障ニーズ(最低生活維持)』の間で適切なサービス提供を常に行うためのニーズ管理環境は、とてもうらやましかったです。」

高谷 「ケアを受ける権利といえはもうひとつ、ユニットのある高齢者の介護必要度が高くなって(グループホームに移す等)場所を移すのではなく、それに見合った職員の数を増やすと言っていました。シャスティンさんは、現在は査定員ではなく、三つの財団に所属するユニットコーチのこと。彼女の職員教育についての講義も大変興味深かったのですが、それは別の機会にしましょう。」

野尻 「ベীগでいただいた昼食はおいしかったです。」



講義の進め方も合理的

岸 「地域の方やご家族も自由に入入りし、利用していました。」

人材育成の重要性



エンゴードバック



オティウム

高谷 「2日目は、三つの財団のエンゴードバックとオティウムを視察しました。ここでは、責任者のモニカ・パイルンドさんから、スウェーデンの福祉と財団の方針について講義を受けました。」

野尻 「くわしくは報告書を...」

高谷 「やはり、人材育成へのこだわりが印象に残りましたね。職員教育プログラムは、毎年作り直しているそうです。感心すべきは、法律や財団の方針を伝えることが常に先にあること。これは徹底されています。それから、みつちりと会議室でレクチャーしてから現場に入れていること。」

野尻 「非常勤についても同様でしたね。」

高谷 「ここでも高齢者がケアを受ける権利につながる話が聞けました。職員が出張するなど、ケアワーカーのマイナスが見込まれる場合は、それに代わる非常勤職員を雇い、補充するそうです。しかも、多職種の非常勤希望者が多数コミニオンに登録されている。」

野尻 「これはすごいですよね。僕や岸さんや高谷さんが海外に行っている間、代わりがいるんですものね。」

野尻 「正に地域との接点ですよ。中で生活している方なのか、介護している方なのか、外から食べに来ている方なのか全然わかりませんでしたよ。」



鮮やかな色使いが印象的



高谷 「ベীগ内でのコマです。」

岸 「廊下やリビングには、自宅から持ち込んだ古い家具やミシン、絵画、写真等が沢山置いてありました。引越すという感覚が伝わりました。入居者が私たちを待っていました。『どうぞ私の部屋をみて下さい。』と案内してくださったのには、うれしいやら驚いたやら...。訪問者に慣れているのでしょうか?」

野尻 「本当に、自分たちの家に招待して下さいという感覚なのでしょうね。『自慢の我が家を見ていってよ。』そんな感じでしたよね。」

高谷 「家具などは、持込が基本。ここでも住み替えるという考えが具現化されていました。街の風景との風景が繋がっているという印象でした。」

岸 「アンティークな品が多かったですね。1000年も戦争がなく、地震のない国だから物が長くとっていらしたんですね。」

高谷 「うらやましい仕組みです。」

岸 「非常勤の登録が多いのは、裏を返せば、それだけ正職員への道は厳しいのだとも、言っていました。正職員の専門性の高さを感じます。」

高谷 「野尻さん、エンゴードバックの施設看板にあるサービスの二番上がレストランでしたね。」



味が伝わらないのが残念

野尻 「いただいたお昼ご飯がこれまた本当に美味しかったですよ。近隣の学生さんたちも普通に食べにきていました。」

高谷 「岸さん、オティウムの印象はいかがでしたか。ここは、43戸の高齢者住宅に、10名の認知症グループホームが併設されていました。」

岸 「なだらかな丘の上の閑静な住宅地に、オティウムはありました。ベランダから私たちに手を振って迎えてくれた老婦人がいましたよ。ここでも歓迎されたようです。そして、やはりというか、素敵な庭がありました。日本庭園のような所もありましたし、中央には小さな温室があって、花の他に果物やハーブなども植えられています。中に入ると、室内は広々としていて、どこの部屋の窓からも庭が見えるようになっていました。そういえば、冷蔵庫に『週に何回外に出たか』をチェックする表が貼ってありましたよね。もっと庭に出てもらいたいと考えて

大切に使われているんですね。」

『五感のケア』がここにも



庭には見るとすぐわかる花を植える

高谷 「ベীগの中庭です。次の日も別の庭を見せていただきましたが、これらを『感覚の庭』と呼んでいました。その意味は?」

野尻 「多摩同窓会を取り組んでいる『五感のケア』、それと非常に似た考え方で作られている庭でした。花の香り、果物の味、穏やかな色の花々。地面一つとっても、砂利が敷いてあるところあり、舗装されているところあり、どんな方でも楽しめる工夫が随所にこらされているんですね。しかも、それらが風景の中に自然に溶けこんでいる。科学的・医学的な目線と日常生活の混ぜ方の絶妙なバランスはさすが!という感じでした。スウェーデンでは、グループホームを含む高齢者住宅の入居者が、週に2回は散歩に出ているか否か、サービスの水準としてチェックされるそうです。」

岸 「認知症高齢者の散歩に、あの庭はとても効果的でしょうね。」

高谷 「我々にも効果的でした。」
いるとのことでした。冬が長いからでしょうか...、高齢者が外に出るといことをとても重要視していました。」

そしてドイツ、ベルリンへ



ベルリンの街

高谷 「ドイツはベルリンに入りました。」

野尻 「空港に降り立つ途端に、違いを感じましたね。慌しさというか、にぎやかさというのか。のんびりした時間の流れるスウェーデンから一転してエネルギーな街に来たな!という印象でした。追いついてられているような気分にもなりました。」

高谷 「そうでしたね。日本がお手本としたドイツの介護保険ですが、岸さん、視察した施設の話をお願いします。」

岸 「ドイツでは二ヶ所の施設を視察しました。最初は、介護レジデンスババリア という施設。シヨイネマンさんご夫妻が、経営していました。建物は、重要建築物になっている古い農家を改装した、140床5階建てのモダンな建物でした。介護の現場はあまり見せていただけなかったですが、ご自慢の大きな菩提樹のある庭で、



施設長の案内で視察



入居者がおやつをとっていました。でも、スウエーデンの入居者より表情がないように感じました。ババリアは、2人室と1人室しかありませんが、入居希望者の80%は個室を希望するそうです。利用料金の40〜50%の自己負担が発生するとの事ですので、やはり、かなり高級な施設のようでした。」

野尻「ここでも高谷さんが、高齢者と触れ合っていましたね。」

高谷「ただね、握手した手に握力がなかったのが気になりました。施設をグルッと一回りして戻った時もまだ同じ場所に座ったままだったし。」

野尻「...」

岸「施設長さんの説明も、建物のことについて終始して、サービスが見えてきませんでした。」

野尻「大体、職員の動きが全くわからなかった。うーん。ただ、そう見えただけでも知れませんがね。」

高谷「どうなんですかね。さて、次に訪ねた施設

広場ではパフォーマンス(大道芸)する人がい



ベルリンの日本人のお宅に招待されました。

ました。そうそう、そこには子供の背丈ほどの駒が置いてあって、見知らぬ人同士がチェスをしていました。面白かったです。建物には落書きが多く『遊ぶ街』といった印象でした。図書館で必要な資料のコピーを頼んで、郵送で受け取ることにしました。今回、オランダ入りした一番の目的である『オランダの高齢者介護関連制度資料集』は、オランダの介護保険がドイツの介護保険制度のモデルであり、医療保険として介護サービスを提供しているオランダの実情を確認する必要があったからです。詳細はこれから一緒に確認していけたらと思っています。」

野尻「空港で金さんと再会したときは、ホッとしましたよ。(笑)」

金「ホント、私も...」

私たちへの宿題

高谷「我々、それぞれに制度の違いを一度に視察できたことは、大変有意義でした。最後に変な質問ですが、成田に着いた時何か感じませんでしたか。」



ババリア 館内

設は、逆に、ずいぶんと親近感を覚えましたがね。」

ドイツの介護保険は今



入居者の若い頃の写真が(認知症フロア)

岸「はい。エリザベイトという名のプロテスタントの教会が150年前に設立させた施設でした。ここでは社会福祉的な理念を感じました。入居者は150人で、重症の人が多く、全体は5つのフロア(ブロック)に分かれていました。高次機能障害が2フロア、それに一般高齢者、認知症高齢者、ショートステイの5フロアです。」

野尻「何てうるさいんだらうって。ヨーロッパの空気が違って、なんだか身体にまとわりつくような湿度とワサワサしたにぎやかさ... ああ、本当に帰ってきちゃったんだあって。」

岸「アナウンスがひっきりなし(笑)。コペンハーゲン空港は、BGMもアナウンスもなかったですものね。」

野尻「でも、実はこれが肌にあっているのかなあと...」

高谷「スウェーデンは全てに合理的と言われるけど、逆に日本が何にしても『過ぎ』なのかなと思っ...」

野尻「イコールではないですよ。スウェーデンの人々の日常生活に溢れているホスピタリティーの精神、その背景はきつと助け合いの精神ではないかと思うんです。お互い様で助け合ってきた厳しい北欧の大地の歴史がそこにはある。でも現代の日本はどうなのでしょう? 複雑になっ...」

岸「でも、取り入れられる何かはある筈ですね。高谷「それを抽出するのが、我々に残された宿題ですな。」

一同「(うなずく)」

《参考》「季刊しんあい」第49号・54号・59号・60号に海外交換研修関連の記事あり

私は、高次機能障害というケアを初めて耳にしたり見せていただいたりで、とても印象に残りました。事故や病気、麻薬などで脳障害を受けた方たちで若い方もいました。専門のトレーニングを受けたセラピストが、様々なセラピーを施しているとのこと。セラピー用の特別な部屋があり、そこではウォーターベッド、音楽、光、香りなどを使いリラックスさせることにより『死と生の間』から目覚める人もいるとの説明でした。」

野尻「ドイツの介護保険は、年齢制限がありません。ここには、20代の入居者もいるそうです。高谷さんは、今度は同年代の入居者と意気投合していましたね。」

高谷「あの方は交通事故の後遺症らしい。置いてあったCDがあまりにも僕と趣味が同じなのでね。」

岸「あら? 壁のヌード写真で盛り上がったのかと。」

一同「(爆笑)」

高谷「お手本としたはずのドイツの介護保険制度の先行きは、結構厳しそうでしたね。」

岸「保険財源は、5年後の赤字が確実と書いていました。2005年に、子供のいない被保険者に追加負担を課すという緊急対策で収支は改善したものの、一時的で、介護保険というシステムそのものが機能しなくなるのでは...と、懸念していました。」

高谷「私たちがドイツ視察中、金さんは一人オランダに飛んだわけですが、あちらの報告を。」

金「アムステルダムに入り、アムステルダム大学を訪問してきました。大学図書館は、書籍が専攻別に分散されていて充実していましたね。街に出ると、運河があり、オープンカフェのある

《視察研修行程》

8月19日	出国
8月20日	イエテボリオリエンテーション
8月21日	イエテボリ三つの財団ペーガハウスを視察
8月22日	イエテボリ三つの財団エンタードゥッゲン視察
8月23日	ベルリンへ移動 (金:アムステルダムへ移動)
8月24日	ベルリン介護レジデンスババリア視察
8月25日	エリザベイト視察 (金:アムステルダム視察)
8月26日	コペンハーゲンへ移動 (コペンハーゲン出発機内泊)
8月27日	帰国

尚、この研修には鈴木常務理事が同行しました。又、小笠原理事のチームとの合同実施となりました。

今回の研修はイエテボリで友子ハンソンさん、ベルリンではベルリン在住の女の会の皆さまにお世話になりました。おかげさまで、それぞれの地で実り多い研修ができたことをお礼申し上げます。

施設 だより

テーマ

喜怒哀楽

人間の感情を表す総称
さあ、皆様は
どんなエピソードを
お持ちなのでしょう？

岩本町

『笑顔の種』

ある日、Aさんと近所の八百屋さんへ買い物に行った帰りに、玄関前にある花壇に立ち寄りしました。色とりどりに咲いているたくさんのお花を見て、「キレイね」「ステキね」と言いながら花壇をゆっくりと一周しました。そうしていると、そこで花の手入れをしてくれていた地域の方に「今年の朝顔の種、持っていったら？」と言われ、片手いっぱい朝顔の種をもらいました。いつも花のお世話をしてくれ、季節ごとに綺麗な花を咲かせてくれる地域の方々への感謝とふれあいに喜びを感じながら「じゃあ、4階のベランダで来年植えようね」と話しながら、思わぬ嬉しい手土産を持ち、お昼ご飯の材料を待つ皆さんの元へ帰りました。

今は女性のみグループホームいわもとですが、お花を活けて飾ったり、種を蒔き花が咲くのを心待ちにしていたりする時の皆さんの笑顔はとても素敵です。来年の夏、グループホームのベランダにたくさんの朝顔が咲いて、全員が喜色満面になるのを今から私は楽しみにしています。

(介護員 稲葉 悦子)



緑苑

全く何て一言を！

世の中には口の悪い人や口の利き方を知らない人がいるものですが、かく言う私も決して褒められたものではないことは充分わかってはおりますが…

先日の事です。入居者Aさんの具合が悪くなり、入院の為に病院に付き添いで行きました。入院前に「検査の為レントゲンを撮ってくるように」と看護師の方から言われ、Aさんと地下に下りて行きました。カルテを受付に出して、レントゲン室前でただでさえ不安で緊張しているAさんに「心配しなくても大丈夫ですよ」等と声を掛けながら一緒に順番を待っていました。ようやく順番が回ってきて、技師の方に言われた一言、「Aさんの付き添いの方ですね、それではAさんを1番レントゲン室のベッドに置いてください。」

いかがですか皆さん！確かに車椅子のAさんは背中も丸まり、服も決して良いものとは言えず、多少みすぼらしく見えながらも知れませんが、これからはお世話になる病院なので「グツ！」と我慢しましたが、相手は人間なんだ、物ではないのだぞ！大バカヤロ！

(介護員 平岡 貴弘)



泉苑

最期の瞬間

特別養護老人ホーム信愛泉苑では、110名のお年寄りが暮らしています。私たちは24時間365日、ご利用者の暮らしを支えています。職員の仕事は主に日中帯と夜間帯に大別されます。泉苑では、実際にご利用者のケアに携わる夜勤者が6名、管理責任者となる管理宿直者とその補助の宿直者2名の体制で夜間の施設全体を守ります。私は週に1回程度補助宿直として勤務しています。

夜の勤務のほとんどは何事もなく終わりますが、時にいろいろなことが起こります。ご利用者の体調が急に悪くなって救急車を呼び同乗することもあります。夜中に地震が起きて施設の点検をしたこともあります。大雪の朝は、早くから雪かきもします。天井裏で水漏れがあつたため、火災報知器が作動し、消防車が何台も駆けつけたこともあります。

そんな中一番哀しかった出来事は、Aさんがお亡くなりになったことでした。「Aさんのおかげでね、家族の皆さんも仲直りしたって。みんなAさんのおかげ。よかったですね。」Aさんが息を引き取る直前、かたわらで声をかけている職員の言葉がとても印象深く感じられました。その後Aさんは職員に見守られ、眠るように息を引き取りました。

私ははからずしも、Aさんの最期の瞬間に立ち会うことができず、とても哀しい瞬間でしたが、人生の幕を閉じる貴重な一瞬でもありました。その瞬間に関わる職員の姿も、普段ご利用者とあまり関わることのない私には忘れることのできないものとなりました。

(事務員 宗澤 章)

きずな

子どもパワー!!

きずな保育室には子ども達の楽しみがいっぱいあります！

ここ数年きずなの幼児はどんどん増え、今では0〜6歳児まで合わせて33名です。日中は地域の保育園に通う子どもがほとんどですが、朝保育園バスが迎えに来るまでの間や夕方保育園から帰って来て、母親が迎えに来るまでの間、常時12名ほどの子ども達がきずなの保育室で過ごします。なにせ0〜6歳までのお子さんが一緒なので遊び方も様々です。保育士が作った新体操風のリボンを手で踊ったり身体に巻きつけたり、まるで指揮者のように振ってみたり…と、大はしゃぎしている子ども達のかたわらで、黙々と紙と糊を使って創作に夢中になっている子やおもちゃで遊ぶ子などなど。子ども達の少ない日中は、ゆったりと穏やかな雰囲気保育室が、夕方はまるで別世界のような大変な賑わいになります。でも、どの子どもも笑顔笑顔。想像力豊かな子ども達にとって保育室は、常に楽しい空間なのです。保育士にとっては、子ども達が楽しい時間を過ごせるよう働きかけられるのと同じに、安全を確保しなければならぬので、ものすごく大変な時間帯なのですが…

それでもやっぱり子ども達の笑顔には、私達大人をも楽しい気持ちにさせてくれる大きなパワーがあることを改めて実感します。

(母子指導員 飯田 明子)



たっち

「ようこそ!!赤ちゃん」
でのニコニコ★シーン



初夏の気持ちの良い陽気の中、11組の妊婦さんとパパそしてお子さんたちが、やや緊張した表情で、たっちのカンガルー講座「ようこそ!!赤ちゃん」に集まりました。ママのお腹には、まだ見ぬ赤ちゃんがスーッ寝ています。1歳から5歳までの新お兄ちゃん・お姉ちゃんは、ママに甘えたいのを我慢していたり、ママのお腹が大きくなっていくのを不思議な思いで見えています。ビデオで出産シーンを見たり、5週・12週・24週の胎児と同じ大きさの骨盤がついているお人形を抱っこしたり、女の子と男の子の違いを紙芝居で見たりしながら、これから会う赤ちゃんを迎えるお話しを聞きました。胎児の人形を抱っこしたパパの中には、「ママのお腹にこんな重いものが入っているんだあ。」とため息を漏らす方、そっとママのお腹をさすっている方もいました。出産シーンでは、感動してうっすら涙ぐむママもいました。子どもたちは「赤ちゃんも大事だし、お兄ちゃん・お姉ちゃんも、とっても大事な存在なんだよ」と助産師に声をかけられ、最後はみんな優しい顔になってパパとママに甘えていました。その後、助産師を囲んで、「兄弟が生まれた後の上の子との付き合い方と生まれる前の関わり」について、それぞれの心配や葛藤を語り合いました。

「我が家だけじゃないんだあ、ばだばたなのは・・・と、ちょっぴりほっとした様子のパパ。

家族4人でニコニコとたっちに遊びに来てくれる日が楽しみです。

(講座担当 杉野 光代)



しらとり

「不思議カード」



しらとり学童では、時折不思議なカードが子どもから子どもへ贈られます。もらう時は寂しい気持ちがあるけれど、開くと自然と笑顔になるもの。贈った側であるはずの子ども達も、「見せて見せて」となる不思議なもの。一体なんのことでしょう。

しらとり学童では学童児が退所する際、フォトアルバムに、子どもたち一人ひとりから各職員からのメッセージカードに思い出の写真を加えた「お別れカード」なるメッセージアルバムを、退所する子に贈っています。そう、不思議なカードとはこの「お別れカード」のことです。

退所について、楽しみ!、という子も、何とも思わない、という子も感想は様々ですが、退所前、最後の学童の時間に、代表の子からお別れカードをもらおうと、みんな一様にしんみりとした様子になります。しかし、その後すぐ、「見せて見せて!」と声があがり、「Aくんの絵上手!」「Bちゃんいっぱいメッセージ書いてるね!」など、みんなの感想が飛び交い、もらった子も仲間と一緒にカードを読んでいるうちに、自然とニコニコ顔に。

退所は、子どもたちも職員も、喜ばしいような、寂しいような一つの節目ですが、学童では寂しさを仲間と共有しながら、最後まで楽しく笑顔で過ごしています。



(少年指導員 津端 真司)



あさひ苑

「次の世代へ」



この10月より府中市ではゴミの分別回収が始まりデイサービス活動でも話題にしています。今までより細かい分別の為、活動中に戸惑いの声や、少々お怒りの声も聞かれています。

そんな10月も押し迫ったある朝の事です。職員がゴミの説明を始めると、Aさんが「回収日が良く分からないんだけど。」の一言を皮切りに、「蛍光灯と電球の捨て方が違ってる本当?」「紙オムツって何ゴミ?」「靴はどうなるの?」と続々と質問が飛び交い、職員が一つ一つ丁寧に答えます。するとBさんが「どうせ最初だけで続かないよ。面倒だし・・・」と怒ったようにボツリ。

確かにゴミ問題は府中市に留まらず各地域で色々な施行がなされています。私の住んでいる小金井市でも、既に有料のゴミ袋でゴミ出しカレンダーに沿って出しています。最初は、実に面倒でイライラしましたが、間違った分別をすると回収してくれませんでした。やらぬ訳にはいかず、今では分別が当たり前の事になりました。そんなお話しすると、「そうよねえ。面倒で頭痛くなるけど、やっぱりやらなきゃね。」「そうそう。孫たちの為にも住みよい環境にしてあげなくちゃ。」(頷く一同)

まだ、人によって受け止め方はまちまちですが、大部分の方が「次世代の為に」と考えているんだなと感じました。「また、分からない事があったら教えてね。」「もちろんです。」と職員。私たちが生活に身近なことをサポートしていかなくてはいけないと感じた朝でした。

(介護員 夏目 尚美)



連雀

若さのひ・け・つ



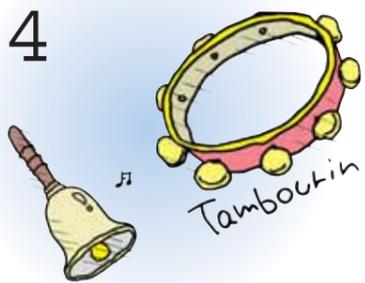
さあ今日は音楽療法の日です。「何を歌おうかしら?」楽器は何にしよう?。「うーん、タンバリン、鈴、やっぱり太鼓がいいわ!」先生がいらっしゃるのは午後だというのに、午前中からはりきり顔。発声練習が聞こえてきます。「歌の予行練習は良いですけど声を囁かさないようにして下さいね。」と、こちらが心配になってしまいます。

待ちに待った音楽療法が始まると、心配御無用と言わなければかりに大きな歌声が聞こえてきます。「鈴を持って身体を動かしましょう!」先生のまねをして身体を動かします。曲によって身体の動かし方も違います。一曲通して見ていると、まるで踊りを踊っているようです。

最後の曲、トリをかざるのは「東京音頭」です。太鼓の音が「ドンドンドン」と気分を盛り立てます。「かんだ連雀祭り」とも題しましょうか。まるで本物のお祭りが催されているような活気です。

興奮冷め止まぬまま今日はこれでおしまいです。「ああ楽しかった」「次が楽しみだわ!」等等など溢れんばかりの笑顔も飛び交います。これが意外といい運動になるんです。それにしても皆様若いですね!この「楽しみ」「こそが、若さのひけつなのでしょうか?!

(介護員 丸山 絃美)



4

ボランティア紹介

〜東京都網代ホーム きずな〜

「宿題？やだ〜!!」「ドリル？やらな〜い!!」という子の学習を強力にサポートして下さっているのが、きずなの学習ボランティアの方々です。3名の先生の個性がキラリとひかる学習スタイルに、子ども達も楽しく勉強に取り組んでいます。

10年以上もお手伝い頂いている島津先生は塾の先生をしておいでで、キビキビとした態度に子ども達も身を引締め勉強しています。いつも時間を守れない子が、あと10分したらいくの。言ってる、覚えてね」と職員に念を押します。ボランティアの先生に触れながら、学習内容のみならず学ぶ態度や姿勢も学んでいる様子。職員とはまた違った関わり、日々感謝!!しています。

(若林 佑子)



真剣です！土曜日朝の勉強会

御寄贈ありがとうございます(敬称を省略させていただきます)

- あかしや会 秋場一男 秋山商店 浅川医院 浅川春
- 巴 池城安俊 泉寿司 内田利一 内田米子 (有) 栄
- 光社 江田廣子 小倉妙子 小沢末子 乙葉美代子
- ㈱オフィスイレブン 松本様 金子一恵 兼坂駒紀友花
- ㈱伊藤方ラス 川博 (財) 菊葉文化協会 久保田摩
- 耶子 栗林正昭 来栖明美 小出陽子 小島裕子 小
- 島ユミ子 小山満里子 近藤宏 坂本文子 佐藤保信
- ㈱サンリオビュローランド 塩川義雄 塩澤佳津子
- 嶋田慶子 ㈱ジャパネット 進藤久 杉田丁裕
- 鈴木芳子 須藤光彦 関七郎 関根 久 浅道町2丁目
- 目黒人会 浅間町婦人会 高砂会 建壁ふみ子 田辺
- 十二子 谷越昇 千代田区母子寮婦ちどり会神保町地

ボランティアの御協力ありがとうございます(敬称を省略させていただきます)

- 会田久枝 青山幸子 赤田美恵子 赤林好子 秋山恵
- 美子 浅野真子 浅見スジ子 網代恵美 アナフリリ
- 玲佳フラダンス 阿部才千代 アロハ・プアリマ
- 飯田アヤ子 飯田八重子 飯塚喜亥子 井口リマ 井
- 口有為子 池田彩子 石井宏 石黒富佐江 石坂勝世
- 石坂規容子 石坂美代子 石原みつる 石山萌 和
- 泉こどもプラザ 和泉小ビックバンド 市川明子 市
- 川知子 市川アイ子 伊東富美子 稲垣セキ子 井上
- 陽子 井上宏子 井踏世津子 今喜多トシエ 上田悦
- 子 上野玲子 上野和子 鶴沢シズ 内野ミヨ子 内
- 堀美喜 梅沢佳代子 江口亜津子 海老澤信子 海老
- 原志つ子 遠藤みつよ 遠藤陽子 遠藤伊代 遠藤博
- 遠藤洋子 大川久美子 大久保肇子 大倉弘子 大
- 西妙子 大橋君子 大橋正子 小笠原敦子 緒方シゲ
- 子 緒方智恵美 岡田基子 岡野玲子 小川喜代子
- 小川智恵美 荻野和子 荻原八枝 小倉道子 尾崎ヨ
- シ子 尾崎節子 お笑いボランティア門井ゲーム 恩
- 田猛 海江田紀久子 笠間豊子 梶田慶子 鹿島千重
- 子 加藤洋子 加藤静 加藤佑子 金澤静
- 江 金沢富久子 上沢美知子 亀岡紀信 川崎綾子
- 川崎和代 川崎恵 川出美恵子 神田消防少年団
- 神田大和町会 北村三枝 城所栄子 木下照子 木
- 村幸子 木本敦子 草野裕恵 草野美鈴 窪田正紀
- 久保田摩耶子 窪野咲子 黒澤真子 警察学校 四郎
- まさ 小出由美子 小岩井雅人 郷精四郎
- 他、下町かっぱれ囉ボランティアの皆様 河野トシ
- ヨ 小坂緑 小島百合子 子雀会 小谷文子 小林久
- 子 今野幸子 紺野和子 ザ・ポデーション ヨ 齊藤
- 孝子 齊藤和子 佐伯ヨシ子 酒井紘子 酒井澄
- 下貴美子 坂本越子 桜山左恵 佐々木英子 佐々
- カズ子 佐藤秋子 佐藤英子 佐藤なかり 佐藤瑞樹
- 他、ポデーション六本木店の皆様 佐藤和子 佐
- 藤初江 佐野田鶴子 塩田圭子 塩澤千鶴 鳴原洋子
- 重田文子 品田啓子 島津弘子 島田たす 清水文
- 枝 清水よね 下江美鈴 下条エイ子 ジョンソン・
- エンド・ジョンソン 進藤サエ子 進藤理子 杉本久

(平成18年6月〜9月)

- 区 泥谷倫子 東京都食肉生活衛生同業組合 東京福
- 社会 時田博 中野榮子 西町会 西原自治会 日本
- 製粉株式会社 日本たばこ産業株式会社 白鷗舎 浜
- 田幸房 平野吾一 深澤昭子 社会福祉法人東京都共
- 同募金会 藤田富治郎 財報知社会福祉事業団 堀
- 田佐知子 増山光快 松井洋治 三鷹市役所子育て支
- 援課 緑町3丁目自治会 緑町自治会 緑町陸月会
- 宮本利雄 三輪武志 武蔵台小学校 むさしの会 村
- 山繁太郎 望月友子 山内俊子 山本直子 弓削田恵
- 美子 吉田ヒサ子 ㈱読売巨人軍 緑寿会 渡辺せい
- 子

(平成18年6月〜9月)

編集後記

多摩同胞会は今年創立60周年を迎えます。その記念として、法人「60年史」の発行、「シンボジウム」や「感謝のつどい」の開催を企画しております。

還暦を迎える法人が、喜寿や米寿、白寿も迎えることができますよ、これからも地域の皆様のご支援を賜わりたく、よろしくお願ひ申し上げます。

(上野広美)



訃報

多摩同胞会の理事であり、施設の管理医、産業医を長い間務めてこられた浅川春巳先生が9月30日に永眠されました。福祉施設の医療について深く理解され、利用者の急変にはいつも駆けつけて下さり、職員の健康管理にもご尽力いただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

- 特別養護老人ホーム 信愛泉苑
- 高齢者在宅サービスセンター 泉苑ケアセンター
- 養護老人ホーム 信愛寮
- 特別養護老人ホーム 信愛緑苑
- 府中市立特別養護老人ホーム あさひ苑
- 府中市立あさひ苑高齢者在宅サービスセンター
- 府中市子ども家庭支援センター たっち

- 特別養護老人ホーム かんだ連雀
- かんだ連雀高齢者在宅サービスセンター
- 千代田区立岩本町ほほえみプラザ
- 子ども家庭支援センター しらとり
- 母子生活支援施設 白鳥寮
- 母子生活支援施設 東京都網代ホームきずな

